

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

<学校の現状>

・素直で元気、真面目に努力する子が多い。学校行事やスポーツ大会など明確な目標に対して一生懸命努力する。元気に挨拶する子が増えてきた。児童が主体的に活動することに課題が見られる。

・職経験の少ない教師が過半数を占める中、指導力向上は重要な課題である。学校力を高めるための実践的な研究・研修が必要である。

・保護者や地域の皆様は、学校に理解を示してくださっている。PTA「鹿一村まつり」は、顧問や同窓会の方々も参加して盛大に行われている。地域行事に、多くの児童が参加している。

<前年度の成果と課題>

○心の教育の推進

・人権意識を高める取組が実施できた。6年主導の「朝のあいさつ運動」は、大きな成果をあげた。今後、下級生への引き継ぎが課題である。また、18年続いたPTAあいさつ活動とともに今後も続けていく。たてわり班活動の取組に対する児童アンケート結果は、やや改善した。次年度も内容・方法の見直しを行う。

○学びを支える健康な体づくり

・授業規律が確立し、各学級の体育授業の運動量が確保できた。連合運動行事では素晴らしい成績を収めた。6年代表選手は、リーダーを中心に自主的な練習ができるまで成長した。この流れを下級生に引き継ぐことが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

重点的な取組事項－1 学力の向上 ～4月の区学力調査問題の各学年の通過率を1月の再テストでは、1割アップする。

- ・授業規律を定着させ、授業に集中できるようにする。
- ・「読む」「書く」活動を充実するように、授業及び家庭学習を推進する。
- ・学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対する個別の指導を充実させる。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ～連携の推進と円滑な接続を目指す。

- ・幼保小の連携は、谷在家保育園を中心に、小中の連携は、通常級は皿沼小学校と加賀中学校と、特別支援学級は第八中学校と連携を行う。
- ・教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを実施する。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進 ～自他を尊重する気持ちと態度の育成

- ・丁寧な言葉遣いや気持ちのよい挨拶を推進する。
- ・読書活動や交流活動を充実する。
- ・日本語に触れる活動として、俳句づくりに取り組む。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

○4月の区学力調査問題の各学年の通過率を1月の再テストでは、1割アップすることができた。

- ・授業改善に取り組んできた。学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対する個別の指導を充実してきた。
- ・さらに、授業改善に取り組むとともに家庭学習を推進し、学校全体の通過率を70%にする。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

○連携の推進と円滑な接続を目指す。

- ・幼保小の連携は、谷在家保育園を中心に、小中の連携は、通常級は皿沼小学校と加賀中学校と、特別支援学級は第八中学校と連携を行い、教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを計画的に実施することができた。
- ・計画通り実施できたので、次年度は、さらに連携を充実したものにしていく。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

○「分かった、できた、やりとげた」をスローガンに、自他を尊重する気持ちと態度の育成に取り組んできた。

- ・読書活動や交流活動、日本語に触れる活動などを充実させることができたが、丁寧な言葉遣いや気持ちのよい挨拶に関しては、次年度も重点的な取り組みとして推進していく必要がある。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○登校時の「挨拶運動」に積極にご協力いただき、子どもたちのマナー向上だけでなく、安心・安全な学校づくりにも効果的な取り組みとして、大きな成果をあげています。

○谷在家、押部町会の交通安全運動、PTA「鹿一村祭り」など子どもたちのために様々な活動を行ってくださり、ありがとうございます。また、開かれた学校づくり協議会による「家庭教育のすすめ」の作成や漢字検定は、本校の教育活動を充実するために大変役立ちました。これからもよろしくお願いいたします。

○運動会や展覧会、持久走大会などには、大変多くの方の参観をいただき、感謝申し上げます。学校公開や授業参観に関しても、積極にご参加いただき、子どもたちの日常の様子についてもより多くの方のご覧いただきたいと思います。

2. 平成26年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
4月の区学力調査問題の各学年の通過率を1月の再テストでは、1割アップする。	65%	74.6% 残念ながら、1割アップに届かなかった。	基礎学力定着に向けた取り組みが成果を上げていると感じているが、高学年での通過率に課題が残る。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> ノーチャイムを廃止して、すべての教育活動の区切りを明確にする。 20分休み、昼休みに予鈴を鳴らし、チャイム着席を定着させる。 「鹿一小の学習のきまり」全児童配布して、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノーチャイムを廃止して、すべての教育活動の区切りを明確にする。 20分休み、昼休みに予鈴を鳴らし、チャイム着席を定着させる。 「鹿一小の学習のきまり」全児童配布して、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> チャイムを設定し、予鈴も鳴らすことができ、チャイム着席への意識化を図ることができた。 「鹿一小の学習のきまり」だけでなく、家庭学習の啓発資料も配布することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体としては、チャイム着席に意欲的に取り組むことができた。 家庭学習の充実のために、具体的な方策を練ることができた。 	○
「読む」学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は、家庭と連携して音読カードに取り組ませる。3年以上は、学年に応じた音読を毎日行う。 文章だけでなく様々な資料を読み取る学習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は、家庭と連携して音読カードに取り組ませる。3年以上は、学年に応じた音読を毎日行う。 文章だけでなく様々な資料を読み取る学習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の中で実施することができた。 生活科や総合的な学習の時間なども活用しながら、資料を読み取る活動を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」ことは、本校の課題であり、家庭学習の中での充実を図ることができた。 調べる活動の中で、「読み」の活動をもっと盛り込んでいきたい。 	△
「書く」学習活動の充実ノート指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年×60字程度の書く学習を週に1回以上の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学年×60字程度の書く学習を週に1回以上の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を積極的に取り入れることができた。 全校朝会の話について文章にする活動を週1回実施し、「書く」力が育成されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月の調査結果でも、「書く」力が身に付きつつあることを実感している。これからも継続していきたい。 	△
評価の改善個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学級の通過率、SP表分析と課題のある児童の2年次からの分析 放課後補充教室の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級の通過率、SP表分析と課題のある児童の2年次からの分析 放課後補充教室の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較して、学力調査の分析を具体的に迅速に行うことができた。 放課後補充教室を計画的に実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、さらに意図的計画的に実施していき、基礎学力定着に活かしていきたい。 	○

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の調査で、80%の教員から連携事業へのよさを認める回答。 ・1月の6年児童アンケートから、中学校との交流事業について、7割以上の肯定的な回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の調査で、100%の教員から肯定的な回答。 ・1月の6年児童アンケートから、中学校との交流事業について、71.4%の肯定的な回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小及び小中の連携活動は、昨年度に比べ計画的に実施することができ、連携の中身も充実していた。来年度は、さらに、連携を深めていきたい。 	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流会、準備委員会を各10回の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の研究授業実施 ・9年間を見通した教科、生活指導計画の見直し。 ・「めざす子どもの姿と働きかけ」の作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、連携を深めていく。 	◎
保育士や学童指導員との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員による保育園、学童施設見学会の実施 ・年間3回以上の保育園児と低学年の交流事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で保育園、学童の施設見学と園長、館長との話し合いを実施。 ・授業体験、公開授業、図書室見学、給食体験、展覧会等への招待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施することができた。 ・新たに、校長が、谷在家保育園での鉛筆の持ち方指導を行ったり、保護者説明会に参加したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、連携を深めていく。 	◎
教員と児童、生徒との交流	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業：3回以上 ・夏季補充教室：10日間 ・部活動、授業体験：1回 ・中学校説明会：1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業：英語、算数等 ・夏季補充教室：指名補習 ・部活動、授業体験：学年末考査中 ・中学校説明会：生徒会が来校 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業体験を除き、計画通り実施することができ、交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様に交流を展開していく。 	○

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を尊重する気持ちと態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果の向上 ・自己肯定感に関する項目 85%以上 ・挨拶・言葉遣いに関する項目 80%以上 ・本が好き 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果の向上 ・自己肯定感に関する肯定的な回答 67.3% ・挨拶・言葉遣いに関する項目 78.7% ・本が好き 75% ・どれも目標を達成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「分かる、できる、やりとげる」をスローガンに指導をし、自己肯定感の育成を意識して教育活動を行ってきたが、さらに、意識的に教育活動する必要がある。 	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
丁寧な言葉遣い、気持ちのよい挨拶の推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで、挨拶・言葉遣いに関する項目80%以上 学校関係者評価で、挨拶言葉遣いに関する項目3%向上 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶キャンペーンを通年実施する。 学校便り、保護者会、ホームページで保護者地域に啓発活動を行う。 P T A、地域と連携した挨拶運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶キャンペーンを通年実施する。 学校便り、保護者会、ホームページで保護者地域に啓発活動を行う。 P T A、地域と連携した挨拶運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> お辞儀をしながら丁寧に挨拶する児童は増えた。 言葉遣いは、さらに改善が必要。 	○
読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年目標を昨年度比3%向上に設定する。 [到達目標] 1年90冊、2年110冊 中学年40冊 高学年2700ページ 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに、児童が自己評価できる読書カードを作成し、意欲を高める。 図書委員会や図書ボランティアの活動を活性化し、読書環境を整備する。 低学年児童に対し図書ボランティアによる読み聞かせを計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの協力により、読書環境が整えられただけでなく、読み聞かせを実施することができた。 読書活動を促すような働きかけを実施した。 ・中学年以上の学年で、目標を達成したのは40%余りで更なる読書活動の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の啓発活動だけでなく、読書時間の確保が課題である。 	△
交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> なかよし学級と普通学級の交流活動を実施する。 高野小特別支援学級と交流活動を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。 高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲーム活動の交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を実施した。 高野小学校と連携し交流を行う活動を計画的に実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内に特別支援学級があることが、本校の特色の1つであり、もっと積極的に交流の機会をもちたい。 	○
日本語に触れる活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 俳句コンクールに投稿 校内俳句コンクール年間2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句カルタや五色百人一首カルタを各学年に配布し、意欲を高める。 パワーアップタイムで俳句や百人一首を暗唱する。 各学級で計画的に句会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句カルタや五色百人一首カルタを各学年に配布し、各学級で計画的に句会を実施する。 パワーアップタイムは、基礎学力定着のために活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色の1つである俳句づくりの活動に、熱心に取り組むことができた。 	△

3. 学校活動全般について

児童の学力向上の取組として、全職員で、朝のパワーアップタイムや放課後補習、土曜日の鹿一タイムを実施してきた。学力が高まっているというデータがあるが、全校の通過率70%に満たない状況であり、つまずきが解消されていない児童も多い。普段の授業の質を高め、補充を充実するために取り組んでいく。

4年～6年の有志児童で構成されている「鹿一金管バンド」は、全校の1割以上の児童が参加し、年間を通して朝練習を行い、鹿浜地区合同音楽会や足立区研究演奏会で迫力ある素晴らしい発表をすることができた。

鋸南や日光の自然教室では、充実した体験活動が実施できた。服のカプロジェクトやなかまプロジェクトなど、高学年児童がリーダーシップをとって、環境活動・国際貢献活動を積極的に行うことができた。

学校・家庭・地域のボランティアの方との連携で、「野菜くずリサイクル活動」を行い、持続可能な社会づくりへの取り組みをすることができた。これは、本校の特色であり、他校や他の地域に誇れる取り組みだと考えている。